

平成24年度 事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

平成24年度は、県警察が三大重点目標の一つとして掲げる「性犯罪の抑止」のためのSDE推進事業の定着と拡大及び防犯ボランティア活動の若年層への拡大をはじめとした各種公益目的事業を、地区防犯協会、警察その他関係機関・団体等との緊密な連携の下、犯罪発生状況など、地域の実態に即した地域安全活動を推進した。

その結果、平成24年中の刑法犯の認知件数は72,240件、前年比-1,181件(-1.6%)と、平成14年をピークに10年連続して減少した。

その一方で、罪種別にみると性犯罪のうち強制わいせつは減少したものの強姦は増加するとともに、街頭犯罪は、ひったくり、自動車盗や自動販売機ねらい等が増加した。

また、振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺は、大幅に増加し、被害額は約10億円近くに及ぶなど、依然として厳しい情勢にある。

第1 協会運営

1 定時総会

5月23日、博多サンヒルズホテルにおいて開催し、平成23年度の事業報告・同収支決算及び平成24年度の事業計画・同収支予算並びに役員を選任等について審議、承認された。

2 理事会及び総会の「決議の省略」

理事の選任について、一般法人法及び定款に定める理事会及び総会の「決議の省略」に基づき、平成25年1月下旬から2月上旬かけて、書面決裁により選任された。

3 理事会

(1) 決算等理事会

5月23日、博多サンヒルズホテルにおいて開催し、平成23年度の事業報告・同収支決算及び役員を選任等について審議、承認された。

(2) 予算等理事会

平成25年3月11日、博多サンヒルズホテルにおいて開催し、平成25年度の事業計画・同収支予算、新規収益事業に伴う変更認定申請、業務執行理事（専務理事）の選定、定時総会の開催時期等について審議、承認された。

4 監査

4月26・27日の両日、平成23年度の業務執行状況について監事による監査を受け、適正かつ妥当と認められた。

5 職員研修会

平成25年2月7日、博多サンヒルズホテルにおいて警察本部生活安全総務課担当者の出席の下、地区防犯協会職員研修会を開催し、公益法人としての県防連の事業運営に対する各地区協会との連携のあり方、自転車防犯登録の促進及び防犯登録カード等の適正処理について、指導及び意見交換等を行った。

第2 防犯対策事業

1 地域安全活動の推進

(1) 全国地域安全運動の実施

10月11日から20日までの10日間にわたって実施された全国地域安全運動期間中、運動用ポスターの掲示、防犯スローガン入りの広報啓発物の配布及びラジオ等での広報啓発活動等を行った。

(2) 安全・安心まちづくり県民の集いふくおか（県大会）の開催

全国地域安全運動の一環として、10月8日、福岡市中央区「電気ビル共創館」において、県、警察と合同で、「安全・安心まちづくり県民の集いふくおか（県大会）」（第5回）を開催した。

県民の集いには、県内の防犯ボランティア団体等約600人が参加し、防犯功労者・功労団体及び優秀ポスター・標語応募者の表彰、SDE推進校の精華女子高等学校と女性と子どもの安全みまもり企業の活動報告、防犯ボランティア団体等によるディスカッションはじめ、交流広場では地域防犯ボランティア団体の活動紹介、情報交換等を行った。

(3) 季節防犯運動の実施

春、夏、年末年始における季節特有の犯罪や年金支給日の振り込め詐欺被害防止などを重点に、地区防犯協会や警察と連携して、振り込め詐欺、ひったくり、サイバー犯罪等の被害防止のための各種活動を推進した。

(4) 性犯罪被害防止対策の推進

ア 県警察の平成24年の三大重点目標の一つである「性犯罪の抑止」対策として、県警察が平成23年から実施しているSDE（Self(自己)・Defense(防衛)・Education(教育)）推進事業の拡大と定着のために、県警察と協定を締結した推進校に対し、当協会が独自に作製した防犯ブザーを自己防衛用品として配布した。

また、性犯罪被害防止対策の一環として県警が推進している鉄道駅窓口における「防犯ブザー無料貸出」事業に関しても、当協会作製の防犯ブザーの提供を行った。

イ 県警察、県防連、自治体、民間企業等で組織する「子ども・女性安全安心ネットワークふくおか」（通称：コスモス・ネットワーク）は、平成25年2月11日、福岡市東区「ナースプラザ福岡」において「女子高生セルフディフェ

ンス・セミナー」を開催した。

(5) 自主防犯活動に対する支援

地区防犯協会における効果的な各種地域安全活動の推進のために、チラシ等の防犯広報用資料及び防犯ブザー、振り込め詐欺被害防止のための通帳ケース及び簡易マスク、ポケットティッシュ等の防犯活動用啓発物品を作製し、配布した。

また、地区防犯協会を通じて、防犯ボランティア団体等に対し、懐中電灯等の活動用品の支援を行い、防犯パトロール活動の活性化を図った。

(6) 学生防犯ボランティア団体に対する活動支援

防犯ボランティアの数は年々増加しているものの、その活動主体が中・高齢者層であることから、若い世代の防犯ボランティアの育成と自主的な活動の促進を図るため、県警察との協働により、平成24年度から学生防犯ボランティアの活動経費の一部を助成する「学生防犯ボランティア活動促進事業」を開始し、学生防犯ボランティア17団体中14団体に対して、申請に基づいて活動促進費を交付し、学生防犯ボランティア団体の活動の促進を図った。

(7) 青色回転灯の助成

青パト防犯パトロール活動のための新規申請者に対し、活動経費の軽減のために青色回転灯の助成を行った。

2 広報啓発活動の展開

(1) 広報媒体を活用した広報啓発活動の実施

西日本、読売の各新聞を利用して、防犯対策や防犯意識の高揚、自転車防犯登録の促進等と呼びかけたほか、全国地域安全運動期間中（10月）と年末特別警戒期間中（12月）にRKB、KBC、FM福岡のラジオ3局及び6月末には、多発するひったくりの被害防止のために、大型街頭ビジョンを活用した広報啓発活動及び被害防止のための注意事項入りポケットティッシュ等を活用した街頭キャンペーン活動を実施した。

(2) 広報啓発資料の作成配布

広報用資料、活動用物品として、ポスター、チラシ、リーフレット、ワイヤーロック錠、のぼり旗、地域安全腕章、防犯ビデオ等を作製・購入し、各種防犯活動に活用した。

(3) 優良防犯器具の普及活動の実施

防犯ブザー、クラックボール、ひったくり防止ネット等の優良防犯器具類の普及に努めた。

3 県防連広報紙「防犯ふくおか」の発行

「防犯ふくおか」は毎月14.4万部、年間約173万部を発行し、県民に犯罪の発生状況や防犯対策、地区防犯協会の活動等各種地域安全情報を提供するとともに、ペンリレー形式による「防犯ボランティア団体の紹介」欄では、各地区の防犯ボランティア団体の活動状況を紹介した。

(昭和30年創刊、平成25年3月で通算689号)

4 防犯ボランティア地域交流会

地域における防犯ボランティアの育成と拡充を図ることを目的に、10月15日、北九州市戸畑区役所において、警察本部担当者、安全安心まちづくりアドバイザー及び学生防犯ボランティアを講師に招き、防犯ボランティア及び防犯ボランティア志望者を対象とした「防犯ボランティア地域交流会」を開催した。

5 表彰

10月8日、福岡市中央区「電気ビル共創館」において、県、県警と合同で開催した「安全・安心まちづくり県民の集いふくおか（県大会）」（第5回）及び各地区防犯協会（警察署）において、防犯功労者（団体）、ポスター・標語優秀者の表彰及び表彰伝達を行った。

(1) 防犯功労者（個人・団体）の表彰

ア 全防連表彰

- 防犯荣誉金章 4名
- 防犯荣誉銀章 8名
- 防犯荣誉銅章 24名
- 防犯功労団体 2団体
- 功労防犯ボランティア団体 1団体

イ 九防連表彰

- 防犯功労者 12名
- 防犯功労団体 2団体

ウ 県防連表彰

- 防犯功労者 42名
- 防犯功労団体 19団体

(2) 全国地域安全運動モデルポスター・モデル標語の表彰

ア 県防連表彰

ポスター307点、標語2,037点の応募の中から審査

- ポスター（一般の部）
最優秀賞 1点 優秀賞 2点 佳作 4点
- ポスター（小・中・高校生の部）
最優秀賞 3点 優秀賞 6点 佳作 13点
- 標語（一般の部）
最優秀賞 1点 優秀賞 2点 佳作 1点
- 標語（小・中・高校生の部）
最優秀賞 3点 優秀賞 6点 佳作 7点

イ 全防連審査に応募

上記最優秀作品等を含めたポスター29点、標語83点の作品を全国優秀候

補作品として全国防犯協会連合会に応募（出品）した。

6 少年の非行防止及び健全育成活動の実施

(1) 少年ボランティア活動

少年の非行防止及び被害防止等のために、警察、地区防犯協会及び防犯ボランティア団体等を通じて、少年補導員、防犯指導員等に対する活動支援や広報資料の作成・配布等を行った。

(2) 少年の健全育成活動

ア 内閣府が主唱する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」（7月中）に協賛し、福岡県青少年健全育成大会（6月）、非行少年を生まない社会づくりキャンペーン（8月）に対する協力・支援を行った。

イ 県警が主催する少年柔剣道合宿研修及び県が主催する青少年囲碁大会などのスポーツ・文化事業に対する後援として助成を行った。

7 自転車防犯登録事業

(1) 地域安全活動の推進

多発する自転車盗難の防止や被害の早期回復のため、地区防犯協会や防犯ボランティア団体等の防犯パトロール、自転車防犯診断等の諸活動を支援した。

(2) 広報啓発活動の推進

自転車利用者に対して、ラジオ、新聞による広報活動及びチラシや啓発用折りたたみ式JR時刻表等を配布し、自転車盗難の防止や被害の早期回復等の防犯登録制度の周知徹底のための広報啓発活動を行った。

また、平成25年3月1日から、福岡県内の全域が自転車防犯登録義務化区域と指定されたことにより、周知のためのポスター3,000枚を作成し、県内約1,700の自転車防犯登録所（店）への配付・掲示を行った。

(3) 放置自転車等対策への協力支援活動の推進

放置自転車や違法駐輪の問題解消のため、自治体等関係機関との協力・支援の強化を図り、放置自転車等の早期返還に努めた。

(4) 防犯登録の普及促進

自転車商組合や自転車販売店等との連携を図るとともに、各種広報媒体を活用した広報啓発活動を推進した。

[平成24年度防犯登録台数 293,866台（前年度比－6,954台）]

(5) 地区防犯協会等防犯登録所（店）に対する指導・表彰

ア 防犯登録を迅速適切に実施するため、自転車防犯登録所（店）に対する業務指導を実施し、防犯登録の適正化を図った。

イ 防犯登録に功労のあった自転車防犯登録所（店）37店舗に対し、各地区防犯協会の総会の席上等において感謝状を贈呈した。

第3 風俗環境浄化事業

1 県公安委員会の委託事業

(1) 風俗営業管理者講習

風俗営業管理者として必要な法令・知識について講習を実施した。

○ 定期講習	21回	979人	(前年比 +210人)
○ 処分者講習	1回	3人	(" ± 0人)
計	22回	982人	(" +210人)

(2) 調査業務

風俗営業許可申請等にかかる営業所の場所及び構造設備等に関する調査を実施した。

○ 風俗営業許可申請	519件	(前年比 +43件)
○ 風俗営業変更承認申請	113件	(" +56件)
計	632件	(" +99件)

2 調査員研修会

6月15日、博多サンヒルズホテルにおいて、警察本部生活保安課担当者の出席の下、調査員(9名)に対する調査業務の適正な処理等についての研修を実施した。

3 少年指導委員に対する支援

少年を有害環境から守り、少年の健全育成を図るために活動している少年指導委員に対して、活動資器材の支援を行った。

第4 AMマーク貼付事業

1 遊技業の健全化促進

「地域防犯協賛機」の字句を挿入したAMマークの貼付事業を推進し、営業者に適正・健全営業の自覚を促すとともに、不正遊技機の排除に努めた。

2 遊技場への立入検査

福岡県遊技業協同組合など5団体で構成する「不正遊技機対策機構」の一員として、遊技場に対する立ち入り検査を実施し、不正遊技機の発見・排除に努めた。